アップサイクルを用いたライフスタイルアイテム
Upcycled lifestyle items

学生氏名[1)]：石野 ことり
指導教員　教員氏名[1)]：西野 隆司

所属先：サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 価値創造研究室

壊れたスーツケースを分解し、椅子や机にアップサイクルすることで「ゴミをゴミにしない」をテーマに、新たなライフスタイルアイテムを提案。廃棄物を素材として再利用し、ゴミを減らすことを目指す。製品の原型を生かしたデザインで、アップサイクルを身近に感じてもらう。

キーワード：アップサイクル,廃棄物,プラスチックゴミ,環境問題

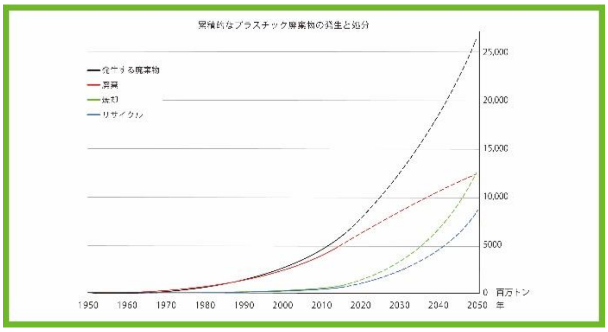
１． 研究の動機と目的

本研究はプラスチックゴミによる深刻な環境問題と、ナノプラスチックが人体に与える悪影響を知ったことを契機に着想を得た。私たちが日常的に出すプラスチックゴミは、最終的に細かく粉砕され、環境中で微細化し、人体に入り込む危険性があることが明らかになっている。そこで、従来のリサイクルに代わる手法として、プラスチックゴミをその形状を保ったままアップサイクルをして持続的に利用したいと考え、この研究に取り組むことにした。

２．調査内容

①環境問題

2015 年までに約 8,300 百万トンの＋チックが生産され、そのうち 6,300 百万トンが廃棄されましたが、リサイクルされたのはわずか 9%。残りの 79% は埋立地や自然環境に蓄積されており、このままでは 2050 年には約 12,000 百万トンのプラスチック廃棄物が蓄積されると予測されている。



（累積的なプラスチック廃棄物の発生と処分）

②既存のプラスチック製アップサイクル商品

Eco Birdy は、プラスチックをアップサイクルして、カラフルな子供用家具を製造している。

(Charlie Chair Sky)

３．コンセプト

本研究はアップサイクルを生活に取り入れて環境問題への意識向上と持続可能な生活習慣の促進を図ることをコンセプトとしている。単なるエコ活動ではなく、普段の生活の中で学べる機会を提供する。ターゲットは子供、親世代に設定する。アップサイクルには工作の要素が強く、親子でも楽しみながらアップサイクルにチャレンジできるため、子供に対して環境への意識を自然に育てるきっかけを提供する。また環境に配慮しつつも、おしゃれで個性的なライフスタイルを追求する人々に、アップサイクルのアイテムがアートやインテリアとして受け入れられる可能性もある。

４．アイデア展開

破損して使えなくなったスーツケースやビニール傘などを素材にアップサイクルする。スーツケースは、ボディ部分を座面に活用し、伸縮ハンドルを脚に、そして足先にはキャスターを取り付け椅子にする。ビニール傘は、持ち手の部分を脚に使った机などを考えている。どれもアップサイクルに使うゴミは身近なもので誰もが持っているものを選ぶ。

５．今後の予定・課題

実際に家の中で試用してもらい、ライフアイテムとしての使い心地や強度、環境問題への意識の変化などをアンケート調査する。それに応じて修正を行う。

６．参考文献

・累積的なプラスチック廃棄物の発生と処分
Science Advances
Production, use, and fate of all plastics ever made
https://www.science.org/doi/10.1126/sciadv.1700782
最終閲覧日 2024/10/13 17:00

・Charlie Chair Sky
Eco Birdy
https://www.ecobirdy.com/products/charlie-chair-sky
最終閲覧日 2024/10/14 15:00